



モバイルワーク環境を整え、働き方改革を促進

課題

事業が順調な一方で 増える担当者の業務量

鳥取県中部の三朝町にある食品の卸・小売業を営む株式会社新藤は、三朝温泉の中心地に小売店を展開し、一般消費者にさまざまな商品を販売するとともに、県中部を中心とした旅館や酒店などに酒類や青果・精肉の販売を行っている。また、大手ビール会社2社の鳥取県中部地区唯一の特約店として、業務用食品の取り扱いも多岐にわたっている。

そんな同社の事業のなかでも出色なのは、日本最大級のワインの品揃えを活用したネット販売事業だ。常時5000本以上の在庫をストックできるワインセラー（倉庫）を所有し、注文への柔軟な対応を実現。商品の企画や管理は、フランス各地の7つの「騎士号（ナイト）」の称号をもつ専務を中心に行われている。

とはいえ酒類販売を取り巻く環境は激変しており、低価格での販売競争、人口減少による地域の市場縮小などの課題を抱えている。こうしなか、同社では生き残りを図るため、ワインや焼酎、日本酒の知識を武器に、地域の卸売から広く商圏を越えたインターネットでの直販事業へ、薄利多売から専門性の高い商品販売へシフトしてきた。

しかし、その取り組みが功を奏して事業が順調に進む一方で、対応できる人員の不足による業務量の増加が課題となってきた。人手不足の昨今、業務の効率化による生産性の向上が必要不可欠だった。

支援

外出先での時間を有効に 活用できる機器を導入

「通信販売事業の担当者の業務量が増加している。何か対策ができないか」。そう同社から三朝町商工会に相談があったのは、翌年4月に働き方改革関連法案の一部施行を控えた2018年のことだった。話を聞いてみると、担当者の業務は、日中は打ち合わせや出張などで外出が多く、それが終わってから事務所に戻って受注処理を行っているため、終業時間が遅くなってしまおうという。

そこで商工会では、外出時の移動時間を有効活用することを提案。経営革新計画の策定を支援し、必要なパソコンやセキュリティ機器を導入。導入にあたっては、働き方改革を推進するための鳥取県の補助金を活用し、費用負担を軽減した。



本社社屋

これにより担当者は社外にいてもリアルタイムで受注確認や在庫管理が可能となり、帰社後の事務作業量が軽減され、それまで繁忙期平均で1日4時間だった時間外労働は、2時間に半減。生産性の向上につながったことで、イベントや商品企画を考える時間的な余裕も生まれ、酒類販売の粗利益も12%増につながった。同社では今後、従業員のモバイルワークだけでなく、在宅ワークも視野に入れている。運用においては現状の就業規則との乖離や不整合などを十分に検討していく必要があるが、商工会では引き続き、同社の働き方改革の取り組みを支援していく。

支援の経過

期間	支援内容
2018年11月	モバイルワークの方向性を検討
12月	経営革新計画の策定支援
2019年2月～	モバイル機器の導入と試行

会社概要

会社名：株式会社新藤
 住所：鳥取県東伯郡三朝町山田197-1
 電話番号：0858-43-0626
 URL：http://www.shindou.co.jp
 代表者名：新藤祐一
 創業年：1915年（大正4年）
 従業員数：30名
 商工会名・担当者名：三朝町商工会・蓼原こずえ